

2021年11月28日

朝拝説教（アドベント第一週、マナデー）

「泊まることにしている」

ルカ 19章 1-10節

鄭 ヒムチアン

- ・前奏
- ・開会賛美 讃美歌 94（代表者）
- ・司会者祈祷
- ・主の祈り(司会者)
- ・マナデー特別賛美(入退場) 第 1,3 礼拝は動画、第 2 礼拝は子どもたち登壇し、特別賛美
- ・マナ愛児園からの挨拶 1:宮崎園長、 2,3:坂入後援会長
- ・マナ支援献金 聖歌 650
- ・献金の祈り 1:宮崎園長、 2:坂入後援会長、3:マナ教師 津田和宏さん

説教

皆さんおはようございます。今日はアドベント第一主日です。子どもたちのきよらかな賛美を聞きました。幼子たちの口を通してイエス様が称えられる。救い主を待ち望むにふさわしい朝です。子どもたちが御手の中で生まれていることに感謝し、連なる家庭の保護者の上に、そしてマナの先生たちと働きの祝福を覚えてともに祈りましょう。

今年も講壇上にこうしてクリスマスを待ち望むアドベントキャンドルが今年も置かれました。今日ろうそく的一本目に火が灯されました。私たちは今日このろうそくに小さいながらも火が灯っているのを見て、嬉しい気持ちになりますね。なぜ嬉しくなるのか。それはこのろうそくを見ながら、私たちが思い起こすのは、私たちの救い主であるイエス様だからです。イエス様によって照らされるのは紛れもない私なんだ。このことがこの寒くて、そして日の短い暗い冬の季節に、私たちに確かな希望を語ります。

教会暦という言葉 皆さん聞いたことがあるでしょうか。全世界の教会が数え、覚える暦（こよみ）、教会の暦です。例えば、もうすぐやってくるクリスマスとか、イエス様の十字架での苦

しみを覚える受難節、主の蘇りを覚えるイースター、聖霊が降り、教会が誕生したペンテコステと言ったように、世界中の教会が共通で覚えるこの教会暦ですが、実はこの教会暦が何から始まるのかというと、今日のこのアドベントなんですね。つまり、教会暦において、1年52週あるうちの、初めの週、第1週が今日なのです。言い換えますと、今日アドベント第1主日は、新しい始まり、クリスチャンにとって新年元旦の日だと言えるのです。

新しい日の幕開け、私たちにとっての新しい新年、新しいはじまりなのです。何故、このアドベント第一週が、新しいはじまりの日なのか。それは偏に救い主イエス様がこの地上に来られるという、到来の宣告がなされたからです。世界を覆っていた闇を切り裂いていよいよイエス様が来られる、本当に来られるんだ、というその確かな約束、それが私たちに新しい人生、新しいいのちをもたらすのです。私たちは年末の忙しい師走を迎えようとしていますが、実は今日は私たちにとっての新しい幕開けの日なのです。イエス様が私たちのところに来てくださったことにより、私たちはまったく新たに換えられ、生かされるようになった。このイエス様との出会いが私たちを変えるのです。

ある日、イエス様をご自分の故郷ナザレに行かれた時、会堂に入って行かれて、聖書の朗読をされます。その時読まれたのは救い主についての預言が記されたイザヤ書61章でした。そのことがルカの福音書4章に書かれています。

ルカ4章19-21節

18 「主の霊がわたしの上にある。貧しい人に良い知らせを伝えるため、主はわたしに油を注ぎ、わたしを遣わされた。捕らわれ人には解放を、目の見えない人には目の開かれることを告げ、虐げられている人を自由の身とし、

19 主の恵みの年を告げるために。」

20 イエスは巻物を巻き、係りの者に渡して座られた。会堂にいた皆の目はイエスに注がれていた。

21 イエスは人々に向かって話し始められた。「あなたがたが耳にしたとおり、今日、この聖書のことばが実現しました。」

救い主は何をするためにこの地上に来られたのか。それは「貧しい人に良い知らせを伝えるためであり、捕らわれ人には解放を、目の見えない人には目の開かれることを告げ、虐げられている人を自由の身とし、主の恵みの年を告げるために。」です。そのために来られたのです。そして、この預言のみことばを読まれたイエス様は、「あなたがたが耳にした通り、今日この聖書のことばが実現した」と宣言されたのです。

私たちの身の回りを見ると、そして自分をじっくり見ると言葉にできない暗くて重いものが

ありますよね。どうしようもないものを抱えている人間の惨状があるわけです。ただでさえいろんな問題を抱えていた世界ですが、この2年間はコロナウィルス拡大でさらに追い討ちをかけられています。しかし、どんな惨状であっても、主の救いが与えられているという事実は変わらないのです。

イエス様がお生まれになったのは家畜小屋、そして寝かせられたのは家畜たちがご飯を食べる飼い葉桶です。誰も生まれた子を飼い葉桶に寝かそうとは思いません。しかし、イエス様は権力のある王座ではなく、弱く非力な赤子として、汚く、貧しい飼い葉桶に来られました。このことはまさに汚く、貧しい私たち自身のうちに来られたということ、何も整っていない私たちただ中に降りてこられたということです。その目的なただそんな汚く、貧しく、弱り果てている私たちを救われるためなのです。イエス様に来てくださるという事によって、イエス様と出会うことによって、私たちに救いが臨むのです。

ルカの福音書にザアカイという取税人が出てきます。彼は周りの人たちから罪人だと指さされ、軽蔑されていた人でした。しかし、そんな人でも主イエス様と出会えば、人生が変わる、新しく生まれ変わるんだということが記されています。今日このザアカイとイエスの出会いを見ながら、このアドベントの主人公であるイエス様を覚えたいと思います。

聖書朗読

ルカ 19:1-10

- 1 それからイエスはエリコに入り、町の中を歩いておられた。
- 2 するとそこに、ザアカイという名の人があった。彼は取税人のかしらで、金持ちであった。
- 3 彼はイエスがどんな方かを見ようとしたが、背が低かったので、群衆のために見ることができなかった。
- 4 それで、先の方に走って行き、イエスを見ようとして、いちじく桑の木に登った。イエスがそこを通り過ぎようとしておられたからであった。
- 5 イエスはその場所に来ると、上を見上げて彼に言われた。「ザアカイ、急いで降りて来なさい。わたしは今日、あなたの家に泊まることにしているから。」
- 6 ザアカイは急いで降りて来て、喜んでイエスを迎えた。
- 7 人々はみな、これを見て、「あの人は罪人のところに行って客となった」と文句を言った。
- 8 しかし、ザアカイは立ち上がり、主に言った。「主よ、ご覧ください。私は財産の半分を貧しい人たちに施します。だれかから脅し取った物があれば、四倍にして返します。」

9 イエスは彼に言われた。「今日、救いがこの家に来ました。この人もアブラハムの子なのですから。

10 人の子は、失われた者を捜して救うために来たのです。」

エリコの町にいたザアカイという人物ですが、このザアカイという名前は「正しい人、義人」という意味を持った名前です。しかし、義人とつけられた名前とはまったく違って、真逆だったのです。彼は周りの人に罪人と呼ばれていました。それはなぜかというとながら取税人であったからです。当時このユダヤ地方はローマ帝国の支配下にありまして、ローマ帝国は税金の徴収を自分たちが直接は行わず、同じユダヤ人に税の徴収を委託したのです。このような徴税の仕組みによってローマ帝国は危険な損失を被ることなく確実に税を取り立てることができたのです。

取税人という人は自分の民族、同胞の仲間たちからお金をとって、支配国ローマに納めることで生計をたてて居たのです。ですから、取税人は同胞から裏切り者、売国奴と呼ばれていました。しかも、ただ税金を徴収したのではありません。取税人は自分の取り分を自由に上乗せすることができました。ですから、ローマから課せられている税金よりもはるかに高い金額を同じ民族の仲間たちから巻き上げ、その余剰金で私腹を肥やしていたのです。それに加えて、2節ではザアカイが「取税人のかしら」であったと書いてあります。たくさんいる取税人の中のトップであったわけです。これは彼が相当なお金持ちであったことを意味していますし、さらには彼が取税人の「かしら」、つまりあの罪人たちの最も上に立つ者であるということの意味しますから、ザアカイという男は売国奴、罪人の代表格としてとにかく嫌われていた、同胞の民からしては顔も見たくないような存在であったはずで

この嫌われ者ザアカイが自分の町にイエス様が来られたということを聞いたのです。そして、彼はイエス様を見ようとして行くのですが、どうしても見ることはできませんでした。何故か。3節にそのことが書いてあります。彼が「背が低かったので、群衆のために見ることができなかった」のです。彼は背が小さかった。人だかりで全く見えなかったわけですから、かなり背が小さかったと思われま

す。この彼の容貌から、ザアカイの姿が見えてきますね。私たちは彼が今まで味わって来たであろう、過去が見えてきます。

人から笑われてきた。ひどい劣等感に苛まれた。親切にしてくれる人なんていなかった。人なんて信じられない。憎くてしょうがない。いつかきつと見返してやる、復讐心。彼の過去、彼がなぜ取税人になったのかが見えてくるのです。

イエス様を見ることができなかったザアカイですが、どうしたかというとながら、今度は走って

て、先回りし、いちじく桑の木に登ります。この姿からもまたザアカイの姿が見えてきます。彼は決して諦めない男だということです。人には頼れない、人は助けてくれない、だから自分の力で生き残らなければならない。今まで彼は自分の力だけを頼りに生きてきたのでしょう。彼が取税人のかしらであったこと、取税人たちのトップになれたということは、悪いことだろうが、嫌われようが関係ない。彼は取り憑かれたように取税人として生きてきたのではないかと思います。そして彼は自分の力で取税人のかしらにまで上り詰めた。自分の力で切り開いてきた人生に自信があったはずでしょう。

しかし、この自分の力で取税人のかしらにまで上り詰めたザアカイですが、彼が今しているその姿から彼の別の姿、本心が見えてくるのです。彼が今何をしているか。彼は今ひたすらにイエス様を見に行こうとしているのです。大金持ちになった、取税人のかしらになった。けどそれでも埋まらない、埋められなかった穴が心にぽっかりと空いているのです。これで幸せになるだろうと追い求めてきたものも結局ザアカイを満たすことはできなかった。

しかし、そんな彼に聞こえてきたうわさ、イエス様のことです。イエス様という方は権威ある言葉を語り、病を癒し、悪霊を追い出す、さらには、あの取税人のマタイという人物はイエス様と出会って、取税人の仕事を捨てて、イエス様についていった。そんな噂を聞いていたでしょうから、なんとしてでも一目会いたい、どんな方か一度でいいから見てみたい。その強い求めが彼のうちにあったと思います。彼はただ一目イエス様がどんな方であるか見れば良い、そんな心持ちだったと思うのです。しかし、驚くことが起きます。

5 節 イエスはその場所に来ると、上を見上げて彼に言われた。「ザアカイ、急いで降りて来なさい。わたしは今日、あなたの家に泊まることにしているから。」

なんとあのイエス様がいちじく桑のところまで来ると、イエス様は自分が登っていた木の上を見上げられた。ザアカイを見られたのです。そして、「ザアカイ」と呼ばれたのです。ザアカイはびっくりしたと思います。あのイエス様が、しかも今街中の人々が追いかけている、人々の注目の的であるイエス様が、皆に嫌われている自分に目をとめてくれた。しかし、それだけじゃない。なんと名前を呼んでくださったのです。イエス様が自分の名前を知ってくださっていたことも驚きですが、おそらく彼は長い間、「ザアカイ」と名前と呼ばれたことはなかったと思うのです。罪人の頭とか売国奴とか、あのチビなどと憎しみを込めて呼ばれていたかもしれません。しかし、イエス様は彼の存在そのものと呼ばれた。そしてイエスは言われます。「**急いで降りてきなさい。私は今日、あなたの家に泊まることにしているから。**」

「私は今日、あなたの家に泊まることにしているから。」泊まることにしているから、私はあなたの家に泊まりたいという願望ではありません。これは言い換えれば、泊まらなければならないんだ、ということです。「ザアカイ、今日私はあなたの家に泊まらなければならない。」決定事項なのです。もう泊まることに決めているから、だから早くおりてきなさいと言っておられるのです。なんと、一方的で強引なイエス様の言葉でしょうか。しかし、今日このイエス様の言葉こそ、私たちの人生を変えることばなのです。

ザアカイには何の準備もなかったのです。彼には何の正しさもなかった、むしろ罪人の中の罪人だった。イエス様とザアカイの間にはむしろ障壁しかなかったのです。しかし、イエス様はそのすべての障壁を突破して、ザアカイのところにやってこられ、話された。「私は今日、あなたの家に泊まらなければならない」イエス様は一方的にザアカイに告げたのです。ザアカイが救いを見出したわけではありません。イエス様はザアカイを捕らえられたのです。

ザアカイにはなんの準備もない、資格もないのです。しかしイエス様は彼を探しに来られた。一方的にザアカイを捕らえられたのです。この「私は今日、あなたの家に泊まることにしている」というイエス様のことばは、まさにこのアドベント第一週にふさわしい言葉だと思うのです。救い主の到来を待つこの日はまさに「今日、あなたの家に泊まることにしている」と私たちに宣言して下さった日なのです。救い主が私たちのところに泊まられる、住まわれるという宣言、人生の新しい幕開けを与えて下さった日なのです。私たちに準備はありません、私たちにはお迎えできる資格もない、ザアカイのように私たちと神様の間には障壁しかありません。しかし、それを突破して、この暗い世界で苦しきさまよい、道を失っている私たちを探しだして、捕らえて下さったのです。

私が幼少期の頃のことですが、親戚の家族と一緒に川に水遊びに行った時のことです。比較的浅い川の中で楽しく泳いでいました。ですが徐々に欲がでてしましまして、泳いでいた場所から前に進み出していきました。すると瞬間、深みの中にザバッと沈み込んでしまったのです。川の底がいきなりえぐれていたのです。足がつかない恐怖にパニックになってしまい、溺れてしまいました。必死に水面に浮上し、助けて、助けてと声を上げ、手をふったのですが、誰も気づかず、泣きながらもがいていました。もう息ができず、ダメだとあきらめたと思ったときのことです。力耐え川底に沈んで行きました。するとその時です、水面から手が現れ、私の手を取り、ぐっと引っ張り上げたのです。親戚の子が溺れている私を引っ張り上げてくれたのです。その子は浮き輪にのって、近くをとおり、水の中で溺れている私を見つけたのです。引き上げられた私は生き返りました。

イエス様は人を罪の闇から、ぐっと捕らえ、引きあげてくださる方なのです。今日ザアカイを捕らえられたように、私たちもまた引き上げ、立ち上がらせてくださるお方です。息苦しい罪の中ではなく、イエス様によって生きる真の人生を与えてくださるのです。ザアカイは生き返ったのです。そしてザアカイは急いで降りて来て、喜んでイエスを迎えました。

しかしこのザアカイの姿をみて、人々は言います。

7節 人々はみな、これを見て、「あの人は罪人のところに行って客となった」と文句を言った。

それを見ていた人々の発言です。なぜイエス様はあの罪人ザアカイのところに行ったのかと非難します。実はこの人々の言葉の中に、私たちが陥りやすい落とし穴があるのです。それは「何故あなたのような人ところにイエス様が来られようか」という非難、否定の声です。実は、この声は非常に私たちの身近に、私たち自身のうちに潜んでいるものなのです。

「あなたは救われるに値しない人だ、あなたは神のめぐみを受けるにふさわしい人ではない、あなたは罪人じゃないか、あなたにはその権利はない。なぜならあなたはこれを守っていないから。そうなりたくないのなら、あなたはこうしなければならない、これを守らなければならない。と自分の力で乗り越えなさい」と私たちに語りかける声です。「あなたのような人は赦されないから。あなたのような人は用いられないから。」自分の力で自分の人生の帳尻合わせを続けるようにという声です。

もちろん、私たちはふさわしくない存在です。しかし、私たちが聞くべき言葉は私たちが滅ぼしていく言葉ではないのです。私たちが聞くべきことばは、イエス様のことばです。イエス様はがなんと行ってくださるのか、救い主の言葉です。そこに心をとめることが大切です。イエス様は今日ふさわしくなどないザアカイになんと言われたのでしょうか。

「急いで降りて来なさい。わたしは今日、あなたの家に泊まることにしているから。」

このイエス様の言葉が私たちを変えるのです。ザアカイは変わりました。彼はもはや以前のザアカイとはまったく違った人間となりました。**8節「私は財産の半分を貧しい人たちに施し、だれかから脅し取った物があれば四倍にして返します」と**皆の前で、主に告白したのです。彼にとってはもっとも大切だったのは、今まで命がけで蓄えてきた財産だったでしょう。しかし、それを手放すのです。まるで違う人間になりました。劣等感、自分の力で生きていかなければいけないという重圧、それはもはや彼を支配していません。彼は本当に自由に、新しい人に生まれ変わったのです。そして、それはイエス様の到来、イエス様の一方的な突破によってなされたのです。

このアドベントの一週目、このイエス様の言葉を聞きたいと願うのです。「急いで降りて来なさい。わたしは今日、あなたの家に泊まることにしているから。」「私はあなたを救わなければならない。」私たちの前にある全ての障壁を突破して、私を捕らえに、救いに来てくださったイエス様のことばです。

教会暦のはじまりアドベント、新しい年の一日目です。それは救い主イエス様が私のところに泊まる、私のところに住まわれると宣言された日です。救い主の訪れこそ、私たちのまことの人生の始まりです。ともに新しい日を歩み出しましょう。

お祈りいたします。

- ・応答賛美 聖歌 654 「神のお子のイエス様」
- ・紹介と報告
- ・頌 栄「2021 テーマソング」代表者 手話
- ・祝 禱
- ・後 奏
- ・先週の出来事の紹介